

のぞまねずさずかれずあるもの

大西 弘記

登場人物

池中 沙織 (41) 道幸家 長女

道幸 泰介 (37) 長男

道幸 由美子 (36) 泰介の嫁

道幸 良介 (29) 次男

道幸 茜 (26) 三女

道幸 真子 (32) 二女

岸田 優一 (32) 真子の婚約者

中年の男

中年の女

看護婦

医師

妊婦

男

若い女

時 1972年と2012年

場所 プロローグ、4、6の中盤、7の中盤、9のみ、宮城県石巻市に

ある某産婦人科の個室。他は道幸家の家、リビング

舞台下手には、L字に二つの背もたれのないベンチシートがある。

上手には、大きなダイニングテーブルと椅子が6脚。

登退口は上手奥のキッチンへ、下手の階段と階段の手前にあるドアの3つ。

■情景

1972年の晩秋、季節外れの嵐が荒れ狂う丑三つ時。

途轍もないほどの雨と風が某産婦人科を呑み込もうとしている。

頬を突き刺すほど強く、真つ直ぐに歩く事も出来ないほど激しく、稲妻

の龍が天と地を完全に支配し、雄叫びをあげるたびに雷を落とす窓の外。

某産婦人科の個室のベンチシートには、中年の男と女が二人座っている。

そして手を握り合い、これから訪れる出会いを心待ちにしている。

※照明はベンチシートに座る二人を後ろから当て、二人の表情が見えないようにする。

プロローグ（出愛）

男は外の様子が気になり、窓の向こうを覗こうとするが、女が握った手を離さない。

男は女の方を見て、また窓の外を見る。

そのまま女の隣に座る。

握った手が更に絡み合う。

男が自分の上着を女の肩にかける。

某産婦人科の窓の外では、相変わらずの激しい雨と風。

紫の空が連続して光る。

遠くに聞こえる落雷の声。

二人が外の稲光に気をとられていると、産婦人科の近くに雷が落ちる。

男も女も驚き伏せる。
少し落ち着き、窓の外を見た瞬間だった。
近くに聞こえる生命の産声。
男と女が顔を見合わせる。
同時に産婦人科の廊下を走る音と少しずつ近づく産声。
個室の扉が開き、一人の看護婦が登場。
看護婦の腕の中には白いバスタオルに包まれた、生まれたての赤子がいて、女は、ゆっくりと立ち上がり看護婦と対峙する。

暗転

1 (カレーライス)

41年後の東京。
道幸家のリビング。
客席に向かって立てに置いてある食卓テーブルの上手となる椅子(※客席に一番近い)は母専用の椅子でクッションが敷いてあり、背もたれには膝かけがある。
次女の真子と結婚を約束した岸田優一は他の椅子に座っている。
真子はラフな格好をしているが優一はスーツ姿にネクタイをしている。
菓子折りが一つある。
奥のキッチンでは長男の嫁・由美子が料理をしている。

真子 つ・ば・さ。

優一 翼、さ、サナギ。

真子 銀貨。

優一 かつお。

真子 オセロ。

優一 ロシア。

真子 悪魔。

優一 真鯛。

真子 い、入れ歯。

優一 入れ歯・・・じゃあ、バツタ。
真子 太鼓。
優一 コーラ。
真子 らくだ。
優一 だ、だ、大工。
真子 くるみ。
優一 み、み、み、耳毛。
真子 もう・・・毛糸。
優一 と、と、トマト。
真子 豆腐。
優一 ふ！ふ、ふ、ふ・・・
真子 ほら、ほら。
優一 不眠不休。
真子 三文字縛りだし。
優一 あ・・・(俯く)
真子 いくじなし。
優一 え。
真子 じゃあ、また今度にする？
優一 ・・・
真子 どうするの？
優一 今日。
真子 なに？
優一 今日、頑張る。
真子 うん。
優一 でも・・・
真子 なに？
優一 迷惑、じゃない？
真子 何で。
優一 だって・・・寝たきりなんでしょ。
真子 うん。

優一 だから。

真子 でも大事な事でしょ。

優一 うん。

真子 久しぶりに会いたって。

優一 え、本当に。

真子 うん。

優一 じゃあ部屋まで行った方がいい。

真子 大丈夫だよ、ご飯の時間になったら起きてくるから。

優一 うん（間）2年前だっけ。

真子 何が。

優一 初めて会ったの。

真子 そんなに前だっけ。

優一 うん。元気だったのに。

真子 もう72歳だし。生まれつき身体も弱かったみたいだから。

優一 5人も産んでいるのに。

真子 え。うん。

優一 ン。

真子 ううん（話を転じるように奥へ）何時ごろ帰ってくるの！

由美子 （奥から）早く帰ってくるって言ってたから、そろそろじゃな

い。

優一 だれ。

真子 由美子さん。

優一 お兄さんの。

真子 うん。

優一 いたの。

真子 いたよ。

優一 早く言つてよ（キッチンの方へ行こうとするが）

真子 一々行かなくても良いから。

優一 何で。

真子 皆揃ってからが良いって。

優一 あんまり良く思っていないの。
真子 (笑ってる)
優一 本当に大丈夫かよ。
真子 今度はなに。
優一 お金が貯まるまでって話。
真子 ああ、うん。古いけど、広いだけが自慢の家だし。
優一 お兄さんとか。
真子 お兄ちゃんだって奥さんと住んでるんだから。
優一 長男だからだろ。真子は次女じゃん。
真子 長女がお嫁に行ったから良いの。
優一 そういう問題かよ。
真子 じゃあ、やめる。
優一 ……
真子 空いてる部屋、余らせておいても勿体無いでしょ。
優一 う、うん。
真子 築40年近いけどね。
優一 ……
真子 肩身の狭い思いをするのも、お金が貯まるまで。
優一 うん。
真子 豆腐。
優一 え。
真子 続き。
優一 まだやるの。
真子 緊張してるんでしょ。ほら、続き。
優一 ふ、ふ、ふ…伏し目がちな俺。
真子 三文字縛りだし。
優一 ふ、ふ、ふ…

優一は、そう言いながら、真子の傍に寄り、キスしようとする。
真子は照れ臭そうに台所を気にしながら受け入れようとした瞬間、ドア

が開き、仕事帰りの三女・茜と買い物袋をぶら下げた長女・沙織が登場。

茜 ただいま、あ。

間

真子 お帰り。

優一 お邪魔してます。

茜 遠慮なく。お兄さん。

優一 (照れている)

沙織 こんばんわ。

優一 初めまして、岸田優一です。

沙織 姉の沙織です。至らない妹ですが、よろしくお願ひします。

優一 こちらこそ、不束者ですが。

茜 至らない女と不束者の男。

真子 うるさいな。

沙織 がんばってね。

優一 はい。

真子 二人で買い物してたの。

茜 うん。

沙織 駅前で待ち合わせしてね。早いわね。

真子 こっちは作戦会議。買ってきてくれた。

茜 ワインもあるよん。

真子 ナイス！順平さんは。

沙織 仕事。

真子 来ないの。

沙織 うん。

真子 いっしょに来てねって言ったじゃん。

沙織 仕方ないでしょ、仕事人間なんだから。(そのままキッチンへ)

由美子さん、何か手伝おうか。

由美子 (奥から) あ、お姉さん、いらつしやい。じゃあ、こっちお願

いします。

優一 聞いてないよ。

真子 何が。

優一 お姉さんまで来るなんて。

真子 あれ、言わなかったっけ。

茜 やっぱ緊張する。

優一 いささか。

真子 何が、いささかよ。

茜 泰介兄ちゃんはしてるかな。

真子 何で。

茜 代行だから。

真子 まさか。

茜 一杯引っかけてくるかも。

真子 ないない。

茜 (急に調子を変えて) 優一君!

優一 え。

茜 練習。

優一 あ、うん。

茜 優一君!

優一 はい。

茜 妹と結婚したいのか。

優一 はい。

茜 一発、殴らせろ。

優一 え。

茜 殴らせろ!

優一 はい!

真子 (呆れて) あかね。

茜 二人にしてくれないか。

優一 え。

茜 嫌か。

優一 いえ。

真子 いつまでやってんの。優一も合わせなくていいよ。

茜 予期せぬ展開になるかもしれないじゃん。

真子 そんなタイプじゃないよ。

茜 わからないよ。感極まって泣いちやうかも。

真子 ないない。

茜 ああ、残ったのは私と良介兄ちゃんだけか。

真子 年功序列で良いじゃない。

茜 やだよ、一番最後？

真子 でも、あんたより良介の方が後かもね。

茜 (少し考えて) ありえる。

優一 ねえ。

真子 ん。

優一 トイレ。

真子 緊張してるの。

優一 いささか。

茜 (笑っている)

優一 どこ。

茜 (下手の方へ) 廊下突き当って左。

優一 ありがとう (下手の登退口へ)

茜 優一さん痩せた。

真子 そうかな。

茜 お姉ちゃんと結婚するから。

真子 何だよ。

茜 知ってるの？

真子 え。

間

茜 言っていないんだ。